

コツツガイ *Eufistulana grandis* (Deshayes)

【選定理由】

個体群・個体数の減少、生息条件の悪化が選定理由としてあげられる。本県では、内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は現在伊勢湾及び三河湾湾口部で稀に棲管が打ち上げられたり、潮下帯から比較的新しい棲管や半片死殻が採集されるが、生息が確認できない(木村, 1996; 2000)。近年、三重大学生物資源学部実習船勢水丸のドレッジ調査で、伊勢湾湾口部から棲管と共に内在する殻まで保存された死後間もない個体が採集され、現在も県下に生息していると判断された。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長 40 mm で殻は白色で長方形(図 2, 4, 6)。全長 100 mm を越える細長い石灰質の棲管(図 1, 3, 5)を分泌してその中に生息する。棲管は先端部分を残して、底質中にほぼ垂直に埋もれる。棲管の外側表面には砂粒やサンゴの破片等周囲の底質を付着させている。



1, 2: 南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 10-20 m), 1994 年 10 月 3 日, 3-6: 南知多町師崎沖(ドレッジ水深 10-20 m), 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

伊勢湾及び三河湾湾口部から渥美外海にかけての潮下帯に生息していると考えられる。

【世界および国内の分布】

日本、インド・太平洋に広く分布する。国内では、房総半島以南から南西諸島の、内湾から湾口部にかけての低潮線から潮下帯の砂泥底に分布する。沖縄島では羽地内海の干潟で生貝が確認されているが、沖縄島周辺以外の干潟域で本種の生息が確認されている場所はほとんど無い(木村・久保, 2012)。また、沖縄島では潮下帯に健全な個体群が確認されているが、本州から九州では潮下帯においても棲管がかるうじて採集されることはあるものの、近年生きた個体が採集された記録は無い(木村・久保, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

内湾の潮間帯から潮下帯の砂泥底に石灰質の長い棲管を分泌して、その中に生息する。その他の生態的特性については不明。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息状況は、【選定理由】の項参照。上述したように県内の潮下帯は環境が悪化しているので、本種の生息場所、生息数とも減少している。

【保全上の留意点】

現在本種が生息確認される海域の環境を維持することが重要である。内湾から外洋域、干潟から潮下帯に連続する生息環境を保全する事が重要である。

【引用文献】

- 木村昭一・久保弘文, 2012. コツツガイ, p.153. in: 日本ベントス学会(編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野市.
 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
 木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

【関連文献】

- 木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第 34 報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会.

(木村昭一)